20024

急性心筋梗塞症例への経橈骨動脈インターベンションの光と陰 病棟看護師のできること

背景経橈骨動脈インターベンション(TRI)の普及によりPCIの低侵襲化は加速し, ST上昇型心筋梗塞(STEMI)症例を含む複雑な冠動脈病変に対してもTRIが積極的に行われている.TRIは経大腿動脈インターベンション(TFI)に比べ,低侵襲であることはもちろん,出血性合併症の軽減等メリットは多い.今回STEMI症例に対する利点・欠点をTFIと比較し,その問題点について検討した.**方法** 2008年10月～2013年6月までに当院にて緊急PCIを施行した226のSTEMI症例を登録,TRI群130病変,TFI群96病変の2群に分け,PCIの手技背景,術後合併症,1年間の追跡経過について比較検討した.**結果**患者背景では透析患者が TRI 群で有意に小であった.カテ室入室からシース挿入までの時間,再灌流までの時間を含むPCIの総手技時間がTRI群で有意に小であった.CCU入室期間,点滴持続時間ならびに在院日数(10.9日vs.13.4日)いずれもTRI群で有意に小であった.PCI後の出血合併症もTRI群で有意に小であった.しかしTRI群において1年以内の禁煙率は有意に小であり,10%以上体重増加した患者の割合は有意に大であり,低侵襲であるがゆえの病識の欠如が浮き彫りとなった.そこで本年度より看護師による複数回の栄養・禁煙指導を含めた生活指導ならびにパンフレットを使用した心筋梗塞の疾病教育を行った.**結論** STEMI症例に対するTRIは出血性合併症の軽減,入院期間の短縮等患者にとってのメリットは大きいが病識の欠如という新たな課題が生じた.病棟看護師として入院期間中に病識の植え付けを念頭に患者教育を進め,今後その効果について検討していきたい.